

無量壽

平成20年8月1日
浄土真宗 本願寺派
林徳寺 発行
025 - 276 - 3456

特集 林徳寺の本堂を 改修しました(その一)

近年、本堂内を歩くと床が沈み込むような部分が目立ってきていました。そこで、普段からお世話になっていて林徳寺門徒でもある江口の「窪田大工(窪田吉三郎)」さんに調べていただいたところ、床板を支えている根太が何力所か折れていることなどがわかってきました。多くの参拝者を支える床のことですし、事故があつては大変です。またこれまで、いつか機会があつたらと念願していた、風除室や車いす用のリフトもこの際に併せて設置しようとして、御門徒の皆様にご協力をいただいて、平成二十年一月から三月まで改修工事を行いました。

工事は一月半ば過ぎから始められました。床板をばぐったところ、二百年前の、本堂建立当時の根太がほとんどそのまま出てきました。細い丸太を二つ



創建当時の根太

に割って、そのまま並べたような状態です。現在とはずいぶん異なった工法ですが、自然のままの木材を上手に活用したものだと感

心させられます。折れた部分は取り替えていただきましたが、それ以外はできる限り残し、その上に現代風の根太をきれいに並べていただきました。

今回の工事では、本堂の参拝者席に畳を敷かず、檜板の床板の上にカーペットを敷いて、椅子席にしました。畳の上に正座することが難しい方も大勢参拝されますので、このような形にいたしました。おかげさまで完成後の参拝者からは好評をいただき喜んでいきます。

また新たに六角灯籠を二基、本堂前方の天井に設置いたしました。これまでのものと併せて三基で本堂を照らすことになり、ずいぶん明るくなつて喜んでいきます。この二基の内、一基は「誠心会

から、もう一方は有志の方四名からご寄付いただきました。

さらに今回は、床の修繕にあわせて、前述の風除室と車いす用リフトを設置しました。風除室ができて、本堂がより大きく立派に見えるように思われます。また冬場は風が入ることもなく、本堂内が暖かくなることも間違いありません。ただ夏の暑さがどの程度かが少し気がかりではあります。

車いす用のリフトは三月の末に設置されましたが、それ以来各月にひとりの割合でお使いいただいています。この方々は、これまでは本堂に入ることをあきらめておられたのかもしれないと思いますと、今回思い切つて設置して良かったという



カーペットの下は檜舞台です

つたという喜びを感じます。今後は事故等に十分注意して、活用していくつもりです。

本山参拝旅行のご案内

平成 23 年には浄土真宗の各本山において、「親鸞聖人 750 回大遠忌法要」が予定されています。しかしこの時期には全国から多くの参拝者が訪れ、林徳寺門徒がまとまって参拝することが難しいのではないかと考えられます。

また平成 21 年 3 月 31 日をもって、私たちの本山・西本願寺の御影堂修復工事が完成します。そこで平成 21 年に、法要に先んじて本山参拝をしようと考えて、以下の旅行を計画いたしました。

- ・旅行期日 平成 21 年 6 月 2 日(火)～4 日(木)
＜2 泊 3 日＞
- ・募集人員 45 名
- ・旅行代金 一人 85,000 円程度
(燃料代の高騰などにより変動の可能性あり)
- ・旅行日程
 - 6/2 新潟空港—大阪空港＝宇治平等院など＝京都(泊)
宿泊：東急ホテル
 - 6/3 本山参拝＝大阪城など＝神戸・須磨温泉(泊)
宿泊：寿楼 臨水亭
 - 6/4 須磨寺＝異人館など＝大阪空港—新潟空港



西本願寺御影堂 素屋根解体工事



大阪城にある石山本願寺の碑

参加希望の方は、平成 20 年 11 月末までに、林徳寺までお申し込みください。ただし、定員になり次第締め切りといたします。

今回、大阪城を日程に加えました。

今から 420 年ほど昔、現在の大阪城の場所に「石山本願寺」と呼ばれる浄土真宗の本山がありました。この場所を巡って、織田信長と真宗門徒が 11 年間「石山合戦」を繰り広げたのですが、この合戦に林徳寺住職と、多くの門徒の皆さんの先祖がともに加わった歴史があります。

その、先祖が命がけで守った本山の故地を、是非皆さんとともに訪ねてみたいと願っていたことを、今回実現させる為の日程です。

日本語になった仏教の言葉 ⑫

《会釈》 あしやく

元々は、仏典中の異なった説を解釈し、その根本に立ち返って説明することを言うことばでした。

この仏教語が転じて、「意見の調和を図る」、「相手にうまく対応する」という意味になりました。

そしてそれがさらに転じて、人に親しみや感謝の気持ちを表すために、頭を下げたりして軽い挨拶をする意味になったのです。

「遠慮会釈もない」という言葉があります。相手に対する思いやりが無く、自分の思うとおりに、強引に物事を進める意味に使われる言葉です。

最近の世の中は、まさにこの言葉に象徴されているように思われます。

今こそ私たちは、相手の思いに心を配り、互いに配慮しあって、にっこりとほえみながら会釈しあう関係を作っていきたいものです。

参考：『知ってびっくり仏教由来の日本語』草木舎